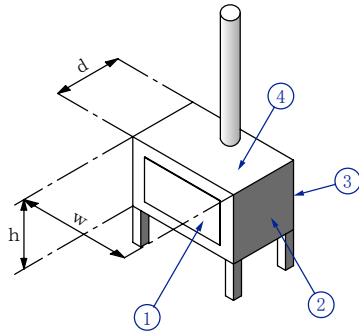


ストーブ等を設置する室の内装制限

(準不燃材料同等告示 平成21年国土交通省告示第225号)

設計の進め方

1. ストーブの投影面積の確認 (各面)



ストーブを構成するそれぞれの面について面積を算出する。

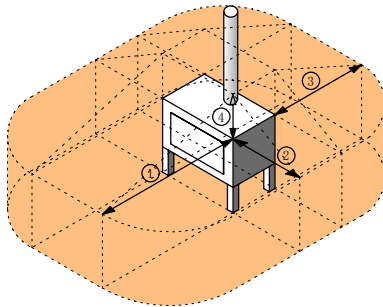
- ① $w [\text{cm}] \times h [\text{cm}] = a 1 [\text{cm}^2]$
- ② $d [\text{cm}] \times h [\text{cm}] = a 2 [\text{cm}^2]$
- ③ $w [\text{cm}] \times h [\text{cm}] = a 3 [\text{cm}^2]$
- ④ $w [\text{cm}] \times d [\text{cm}] = a 4 [\text{cm}^2]$

w : ストーブ幅 [cm]
 h : ストーブ高さ [cm]
 (ストーブの脚の高さを含まず)
 h : ストーブ奥行 [cm]

2. ストーブ等可燃物燃焼部分の確認

ストーブ等可燃物燃焼部分 (水平・垂直) を確認する。

※ a の数値は (1. ストーブの投影面積の確認) による



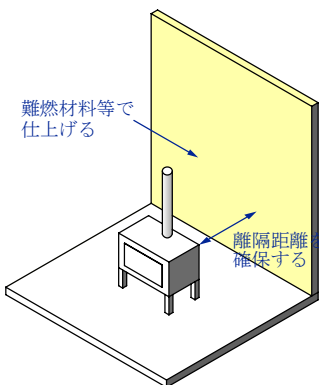
- ① ストーブ等開口部がガラス等の材料によって適切に覆われている場合 $2.40\sqrt{a} 1$
- ① ストーブ等開口部がガラス等の材料によって適切に覆われている場合以外の場合 $3.16\sqrt{a} 1$
- ② ストーブ等開口部がある面以外の面 $1.59\sqrt{a} 2$
- ③ ストーブ等開口部がある面以外の面 $1.59\sqrt{a} 3$
- ④ ストーブ等可燃物燃焼垂直距離 $0.0106 \left(1 + \frac{10,000}{a^4 + 800}\right) a 4$

3. ストーブ等可燃物燃焼部分と壁面 (天井) の遮熱について

ストーブ等可燃物燃焼部分の遮熱については、以下の3つのルートの考え方に分けられる。また、天井の場合も同様の考え方に分けられる。

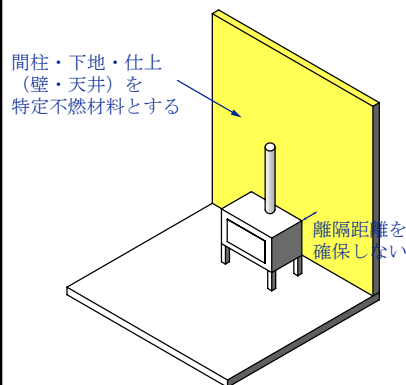
ルートA

ストーブ裏面 (側面) と壁面の離隔距離を充分に取る場合



ルートB

ストーブを壁に近接して置き、壁の下地・仕上げにより対応する場合



ルートC

ストーブを壁に近接して置き、遮熱板等を設ける場合

